

あくまで、**がんの治療を行うことが最優先**になります。

ただ、将来の自分のために、“知ってほしいこと”“考えてほしいこと”があります。

”いまは想像がつかない”という方も、“一人では決められない”という方も

私たちと一緒に考えませんか？



生殖機能と治療の関係

がん治療の内容によっては、妊よう性(妊娠できる能力)に影響を及ぼすことがあります。

例) 卵子・精子の減少・消失
造精機能障害、排卵障害
ホルモン分泌障害など

日本がん・生殖
医療学会
専用ページは
こちら
↓↓



妊よう性温存療法にはどんな方法がある？

精子凍結／未受精卵子凍結
受精卵凍結／卵巢組織凍結

どの方法を選ぶかは、パートナーの有無、年齢などによって異なります。

選択肢によっても将来の妊娠確率が異なります。

※左記のQRコードから日本がん・生殖医療学会HPを参照ください。

多様な価値観

”子どもをもつ”以外にも選択肢はあります。

”子どもをもつ”という選択肢も一つではありません。

”家族”の形も人によってさまざまです。

例) (特別)養子縁組／里親制度
パートナーとの生活
ペットとの暮らし など

抱く思い、葛藤、選択

人によって、抱く思いや葛藤、選択は異なります。

- ・今は治すことしか考えられない。
- ・イメージが湧かない。将来のことなんて考えられない。
- ・治療費もかかるし、温存にかかる費用が心配。
- ・治療が遅れてがんが進行するのが心配。
- ・温存をしなかったら一生後悔するかもしれない。

など

将来、子どもをもつ、もたないに関わらず、あなたの価値観を尊重します。

相談をご希望の方はスタッフへお声掛けいただくか、相談窓口にお越しください。(相談窓口)

愛知医科大学病院・AYAサポートチーム
がん相談支援センター(1階14番)